淑　徳　大　学　広　報　誌

Together

SHUKUTOKU
http://www.shukutoku.ac.jp
No. 214 | 2017.1.1 Winter

学長メッセージ
刺激を受け、学び合う。
喜びを分かち合う。

ともいきのこころ
スポーツから
ともいきのこころが広がる
そして、すべてのいのちが輝く

淑徳人
筑波大学附属病院 がん相談支援センター 勤務
平野　香純さん

NEWS CLIP

知識モリモリ × 健康モリモリ
冬がピーク、
ノロウイルスによる食中毒

Cover Person
竹内 萌乃さん（栄養学科２年）

特　集

淑徳大学強化指定クラブ

スペシャル座談会「学生スポーツのあるべき姿」

千葉 CHIBA　2020東京パラリンピック大会　公式行事
「パラフェス2016」にインターンシップ参加

11月22日国立代々木第一体育館で開催された「ＰａｒａＦｅｓ２０１６」にボランティアとして参加しました。

このパラフェスは、音楽を通してパラリンピック・パラスポーツをもっと身近に感じてもらおうと「日本財団パラリンピックサポートセンター」が主催したイベントです。

イベント内容は、障がいの有無に関わらず、同じ〝フェス〟をともに楽しむことで、インクルーシブな空間を実現しようと、リオパラリンピックのメダリストたちによるデモンストレーションやトークを披露。さらに、義足や松葉杖の世界的ブレイクダンサーＬａｚｙｌｅｇｚ／Ｔｏｍｍｙのスペシャルダンスや、日本が誇るトップミュージシャン大黒摩季のパラスポーツ応援ライブなどが行われ、訪れた５０００人が熱狂しました。

本学からは総合福祉学部生、コミュニティ政策学部生、看護栄養学部生の総勢８名が車椅子で来場された観客誘導などをお手伝いいたしました。パラリンピック関連イベントという事もあり、多くの車椅子来場者が来客されましたが、福祉の淑徳大学として日頃から訓練されている介助方法はもちろん、楽しいイベントならではの笑顔あふれる対応で最大級の〝おもてなし〟をいたしました。

淑徳大学は２０２０東京パラリンピック大会の開催に向けて、今後より一層パラスポーツを応援して参ります。

来場されたお客様にプログラムを渡したり、車いすのお客様には客席への誘導を行いました。（写真左）

フェスが始まる前に、スタッフ一同、係の方と入念に打ち合わせ。日頃、福祉の勉強をしている淑徳大学生ならではの“気配り”“おもてなし”を求められます。（写真右）

埼玉 SAITAMA　女子柔道部
全日本学生柔道体重別団体優勝大会3位

10月29日、30日にベイコム総合体育館（尼崎市記念公園）で行われた平成28年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会（女子７人制）において、本学女子柔道部が第３位に輝きました。初戦（２回戦）で、昨年の優勝校である帝京大学を破ったものの、準決勝で東海大学に内容差で惜しくも敗退。今春に引き続き、全国第３位となりました。

また、今大会の優秀選手賞に、主将の臼井杏さん（国際コミュニケーション学部４年）が選ばれました。

来年こそ学生日本一になれるよう、更なる努力を続けてまいります。引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

淑徳大学 女子柔道部のみなさん。写真後列右から3番目が今大会優秀選手賞に輝いた主将の臼井杏さん。

千葉2 CHIBA2ND　第3回チャレンジ！
糖尿病いきいきレシピコンテスト、優秀賞獲得！

看護栄養学部栄養学科３年生のチーム（チーム名：淑徳ミルフィーユ）が「第３回チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト（公益社団法人 日本糖尿病協会主催）」で応募件数３１１件の中から、見事、優秀賞（昼食部門、レシピ名：アモーレディちば）を獲得いたしました。

エントリーした猪砂知里さん、工藤夏子さん、橋本恵介くんに賞を取った感想を伺ってみました。『二次選考に進めただけでも嬉しかったのに優秀賞に選ばれるとは思いませんでした。非常に自信がつきました（猪砂）。』『親族で糖尿病を患っている者がいる関係で、今回応募しましたが、チームで受賞でき、視野が広がったと思います（工藤）。』『驚きと感謝でいっぱい。人に支えられて、人に生かされていると思うことのできた良い機会でした（橋本）。』とそれぞれ感想を述べていただきました。

また、今回のレシピ作成ポイントは糖尿病の患者様だけでなく、「どこかで誰かが気軽に食べてもらえる」ことをコンセプトに作成したそうです。しかし、当初、グレープフルーツのグラニテを考案していたそうですが、服用されているお薬との相互作用（同時に摂取することで、本来の薬の効果が増強されたり、減弱されたりすること）を考え、急きょ、キウイのゼリーに変えたそうです。大学での学びがこういったレシピコンテストで活かされたようです。これからも将来に向けて、益々の精進が期待されます。おめでとうございました。

優秀賞をとって「やった―」という歓喜よりも驚きと感謝でいっぱいになった。二人にはチームを組んでくれたこと、サポートしてくれたこと、考えを共有したことに対する「ありがとう」。またアドバイス頂いた桑原先生、家族を支えてくれた人に対してありがとうの気持ちでいっぱいと橋本さん（写真中央）。今回をきっかけに糖尿病（１型、2型）について勉強したり、臨床や献立つくりにもより一層興味を持ち、モチベーションが上がったと工藤さん（写真右）。もっと色々な種類のコンテストに応募して色々なレシピを作成することに挑戦してみたくなったと猪砂さん（写真左）。

一季一言

淑徳大学 学長　足立（あだち） 叡（あきら）

刺激を受け、学び合う。喜びを分かち合う。

「一芸に秀でる」という言葉があります。スポーツでも芸術でも、優れた能力を持つ人は、尊敬すべき人格を備えています。

本学では、運動部を中心に７つの部を強化指定クラブとしています。スポーツ教育も「実学」であることは言うまでもありません。競技である以上、優秀な成績を残すことはもちろんですが、練習や試合への取り組み、あるいは指導してくれる人やチームメイト、応援してくれる人との関わりを通して自分を高めていく「人間教育」であり、それが本学の目指す部活動です。選手たちにおいては、スポーツを通してどういう人間になりたいかを思い描きながら模範となって心身の鍛錬に努めてほしいですし、応援する学生は各部の活躍をともに喜び、それを励みに自分の活動に力を入れてほしいと思います。スポーツを一つの起爆剤として、キャンパスでの学びが活性化されることを大いに期待しています。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでもスポーツの持つ力や影響の大きさをあらためて感じました。福祉、コミュニティ、看護・栄養、教育等の分野でも、スポーツの果たす役割が今後ますます大きくなっていくでしょう。その中で、本学が先駆的に取り組んできたのが、毎春に行われている「長谷川良信記念　千葉市長杯争奪　車椅子バスケットボール全国選抜大会」です。選手たちの迫力あるプレーに圧倒されます。また、スポーツ経験のない学生であっても地域と連携しながら大会運営に携わることもできます。ぜひ会場に足を運び、パワーと新たな学びの機会を得てほしいと思います。

私は繰り返し、講義や書物を通した学びに加えて、キャンパスを出て他者との関係性の中で経験を通して学ぶことの大切さを伝えてきました。2017年も社会の変化がいっそう加速していくでしょう。それだけに学び成長するチャンスも広がっているのです。淑徳大学で学ぶことを誇りに、4年間という限られた時間を大切にして、学習やさまざまな活動に主体的に取り組んでください。

Cover Person　表紙の人　vol.214

看護栄養学部 栄養学科２年
竹内（たけうち） 萌乃（もえの） さん

栄養学科では、ほぼ毎日、実験や実習があり、そのレポート課題も多く大変ですが、仲間と協力しながら充実した学校生活を送っています。

また、小学校一年生から続けているなぎなたでは、国体やインカレなどの大会にむけて、日々のお稽古にも励んでいます。勉強とお稽古が大変で、心が折れそうな時もありますが、周りの友達や先生、家族に支えられて、文武両道を目指しています。

さらに、ボランティア活動にも積極的に参加し、多くの方々と触れ合えることでコミュニケーション能力も高まり楽しく活動しています。支えてくださる多くの方々に感謝しながら、管理栄養士を目指して頑張っています。

試合中の竹内さん（写真左から2番目）

指導者と学生との“信頼関係”を築くことが、学生の成長とクラブ強化の前提条件に！

学生スポーツのあるべき姿

淑徳大学には現在、7つの強化指定クラブがあります。今回はその中から、3つのクラブの指導者の方々にお集まりいただき、座談会を行いました。学生スポーツの現状と課題を浮き彫りにしながら、それぞれのクラブの練習環境や学生指導の理念、大学の強化策と現場との連携、今後の目標などについて語り合いました。今回お集まりいただけなかった4つの部活の監督からも、コメントを頂いています。

サッカー部

淑徳サッカー部の強みは「考えるサッカー」。選手一人一人の自主性を重視し、自分のサッカーを展開します。仲間との連携も疎かにならないよう、普段から実践型練習を重視しています。

【監督】伊藤恵造　【部員数】29名
【主な戦績】千葉県大学リーグ２部所属

ソフトボール部

インカレ優勝を目標に、選手同士のつながりを深めチームワークでの勝利を目指しています。他大学と合同での長期キャンプ、社会人チームとの合同練習など、常に公式試合を意識した練習に取り組んでいます。

【部員数】24名
【主な戦績】関東学生ソフトボール連盟1部所属
第51回全日本大学女子ソフトボール選手権大会出場

女子柔道部

「柔道を通した自己表現」を大切にし、心技体のバランスの取れた自立した人格の育成に努めています。失敗を恐れず前向きに努力する伝統の中で、毎日柔道と稽古に挑戦しています。

【部員数】26名
【主な戦績】平成28年度全日本学生柔道優勝大会第３位

強化クラブの指導者が定期的に集まって経験交流ができるような仕組みが必要

コーディネーター　福山 純一郎（ふくやま じゅんいちろう）〔人文学部（東京）准教授〕

朝日新聞社退社後、出版社、IT企業などを経て本学へ着任。東京大学在学時には硬式野球部に所属し、東京六大学野球で活躍した。1979年秋のリーグ戦（対慶應義塾大学戦）で本塁打を放ち、チームを勝利に導いた経験をもつ。’81年には同野球部助監督に就任。

福山（コーディネーター） 初対面の方もいらっしゃるようなので、自己紹介も兼ねて淑徳大学でご指導いただくことになった経緯について、それぞれから紹介をいただきたいと思います。

祖母井（サッカー部アドバイザー） アドバイザーという立場で今年からお世話になっています。サッカー部の伊藤監督とは旧知の仲で、その関係で指導者の話を頂きました。ジェフユナイテッド千葉に指導者として13年間在籍し、その前は12年間、大阪体育大学で指導した経験がありますので、大学スポーツについての話は出来るかなと思っています。

増淵（ソフトボール部監督） 母校が東京女子体育大学で、その恩師の方から監督をやってみないかというオファーを受け、ソフトボール部の監督として就任させて頂きました。今は”自分の母校は淑徳大学“だというくらいの熱い気持ちで指導に当たっています。

野瀬（女子柔道部監督） 淑徳大学に来る前は埼玉大学で柔道部の監督をしていました。当時から淑徳大学と埼玉大学とは交流があり、今でも週1回合同練習をする関係にあります。そのようなこともあって、淑徳大学柔道部前監督が退任された際、まずは監督代行を埼玉大学との兼任でお引き受けして、その次の年には淑徳大学専任の監督となり今年で5年目になります。

福山 ありがとうございました。現在の1週間の活動がどのようになっているのか、それぞれ教えていただけますか。

野瀬 週6日の練習で、日曜日を休みにしています。柔道部の学生は寮生活をしているので、寮生活も含め指導をしています。

1日のスケジュールとしては、朝のトレーニングは、7時30分から1時間弱くらい、9時からの授業に間に合うように切り上げています。午後は4限の授業が終わった午後4時30分から、全体練習はだいたい7時まで、そのあと個人的に残って練習していく学生も含めて、あまり遅くならないように9時には帰すようにしています。

増淵 シーズン中とオフシーズンとでは違うのですが、シーズン中ですと土・日と練習試合を入れて、公式戦も入ってくるので、月曜日がオフになります。1日の練習は柔道部と同じで午後4時30分からです。最終のスクールバスの都合もありますので、午後8時30分ごろに終えています。オフシーズンは厳しい基礎トレーニングが中心になってくるので、それを乗り切るため、選手達は全員で声をかけ合いながら頑張っています。

祖母井 千葉キャンパス内にはグラウンドがないため、練習は更科グラウンドまで循環バスで移動する必要があります。全員が揃って練習を始められる日がほとんどない、というのが現状です。選手が教育実習で集まらないという状況を伊藤監督から聞いていましたが、千葉県大学リーグの1部に昇格しましたこともあり、大学側のサポートもあって今年は一緒に練習できる環境になっているのかなと思います。

福山 学生とのコミュニケーションを図っていく上で、みなさんの学生時代と今の学生とは、気質の違いを感じるところはありますか。

増淵 今の淑徳大学の学生や選手を見ていて、私の学生の頃と変わるところは全然ないと思います。一生懸命取り組むところは取り組みますし、そういった環境を監督が与えられるかどうかというところが自分の力量だなと思っています。指導者と選手の信頼関係によって同じ言葉でも入ってくるものが全然違うと思っていて、もちろん指導方法も勉強しなければなりませんが、とにかく選手との信頼関係を築かないと伝わらない。信頼関係をつくるために、私の場合は、できるだけ自分をさらけ出すようにしています。

祖母井 私は、大阪体育大学にずっといた関係で、どうしても比較してしまうのですが、淑徳大学の場合、授業では真面目な学生さんが非常に多いですね。先生が話をしているときにお喋りをするような学生もたまにはいますけど、すごく真面目に授業を受けているなと感じますね。しかし、何か1つに燃えるという、そういった学生は少なくなってきている。逆に、将来のことばっかり考えて、毎日を大事にできていない学生がちょっと多くなってきているかなと思いますね。

野瀬　確かに、今の学生は真面目だなという印象を受けます。時代の変化や社会も変わってきて、そこに対応すべく学生たちも変わってきているとは思いますね。「真面目」というのは、あまり枠からはみ出さないようにというか、自分がやりたいことを、「これがやりたいんです」と表現するのは少し苦手なのかなと感じることはあります。年々そういう傾向になってきているのは感じています。

福山　今の学生に自分の気持ちをストレートに伝えたい時はどのような方法をとっているのですか。また、学生を指導する中で、常にこれだけは言っている、徹底させているということがあれば教えていただけますか。

野瀬　今の学生は、ＳＮＳなどを利用することが多いので、増淵先生がさっきおっしゃった信頼関係も含めて面と向かって言うよりもメールに残してやると伝わるケースも多いと思います。チーム状態がうまくいっていなくて選手が精神的にも弱っているときには、メールで〝俺はこう思っている〟と書いた方が、時にはしっかりと伝わることもあります。学生に合わせて使い分け、信頼関係を一番に考えています。

祖母井　指導ということになると監督との関係もありますが、私はいつも〝グラウンドでは力を出し切りましょう！〟と言っています。１００％出し切ることが必要だと思います。サッカーに限らず、見えるトレーニングと見えないトレーニングがあると思いますが、見えないトレーニングの重要性とか、練習の雰囲気が監督と選手の上下関係で左右されるのではなくて、皆でいいクラブにしていこうという雰囲気づくりが必要ですし、今のサッカー部にはそれを感じます。

増淵　去年就任した時から、〝やるときはやる、遊ぶときは遊ぶ〟ということを事あるごとに選手に言っていますが、とにかく〝やるときはやる〟というスイッチのある選手になってもらいたいと思っています。ソフトボールだけやっていればいいというのではなく、ソフトボールを通して人間的に成長してもらいたいなと思っていますが、それは私が恩師から教えていただいたことでもあります。

福山　それぞれのクラブの練習環境について教えていただけますか。

増淵　大学には、とても良くして頂いているので…（笑）ただ、大学内にあるグラウンドがもうちょっと広いといいなと思っています。具体的に言うとラインの距離が20メートル足りないので、外野の守備練習が出来ないということがあります。今は何とか工夫して使っています。

祖母井　サッカーの場合、一部リーグの大学はどこも人工芝のグラウンドですが、更科グラウンドは未だに土のグラウンドです。部の強化というだけではなく、人工芝を敷くことで地域の少年サッカーチームとの繋がりももっと

見えないトレーニングの重要性や、上下関係ではなくて
皆でいいクラブにしていこうという雰囲気づくりが必要

祖母井（うばがい） 秀隆（ひでたか）〔サッカー部（千葉）アドバイザー〕

大阪体育大学卒業。同大学のサッカー部コーチを務めたのち、
ジェフユナイテッド千葉でも育成部長、ゼネラルマネージャーを担当。

やるときはやる、遊ぶときは遊ぶ
メリハリがある選手になってもらいたい

増淵（ますぶち） まり子（こ）〔ソフトボール部（埼玉）監督〕

東京女子体育大学卒業。2000年シドニーオリンピック銀メダリスト。
2015年より淑徳大学ソフトボール部監督に就任。

CHIBA　硬式野球部　［監督　中村 安孝］

父親の影響もあり小学生から硬式野球に親しみ、市立船橋高校から立正大学へと進学し、卒業後は社会人野球ローソンと硬式野球界に身を置いてきました。その後は、母校である立正大学で後輩の指導などを経験し現在に至ります。淑徳大学前監督からの強い要請により、不安ではありましたが、地元の大学野球発展のために2007年よりお引き受けいたしました。　指導の際には、故障や怪我のないことを一番の念頭においています。故障などで野球を嫌いになることだけは避けたいと思っています。また、選手はライバルでもあるチームメイトを尊敬しあい、作戦面も含め全員が納得できる指導を心掛けています。　学生スポーツを通じて、集団での協調性、耐久性（体力・気力）を課題とし、挨拶や礼儀はもちろんのこと、犠牲を厭わず、明るさと爽やかさを併せもった、社会の朋輩となって欲しいと思っています。

できるのではないかと思っています。

野瀬　他大で行われているような、ハード面を整えて奨学金を出して、寮を整備してというのは強化の１つの方法ですが、どちらかというとソフトウェアを充実させていこうというのが私自身の考えです。

　まずは技術よりは考え方ですね。それを徹底して叩き込み、それから技術を教えるということです。手っ取り早く技術を教えれば試合には勝てるかもしれませんが、それよりも1年生の時に負けて泣いて、「苦しくても頑張ろう」という考え方を根付かせていって、3、4年で技術を教える。そのバランスをどう取るかということを意識しています。

福山　今、野瀬さんから柔道部の場合の〝考え方と技術〟についてお話がありましたが、強化をしていくため、大学の4年間の使い方についてそれぞれの考え方、取り組みを教えていただけますか。

増淵　高校段階で基礎的な練習をやっているチームとそうでないチームとでは、そのチームで育った選手が大学に入った段階で多少の違いがでます。スタートラインでまず体力も違ってくるので、基本的には1年生だから全員基礎体力をつけなさいということはないのですが、個々の選手を見てトレーナーがフィジカル面での強化方法についてアドバイスをするようにしています。

野瀬　柔道部は、〝積極的に、より自分らしく〟をスローガンとして、柔道で自己実現していくことを目指しています。淑徳の柔道部には自信のない選手が非常に多く、1年生もレギュラーですぐ戦える選手は何年に1度入ってくるかどうかという現状ですが、とにかく鍛えて成長させて、3年生くらいになって戦力になって、自分を表現できるようになってくるということですね。それを追求していくと、強豪校をちょっと脅かせる存在になれるし、徐々に現実味を帯びてきています。

祖母井　サッカーの場合、あまり学年での区別というのはないと思います。

福山　ありがとうございます。次に今の質問とも関連するのですが、1つのチームが抱えられる人数、つまり指導が行き届く人数というものには限界があると思います。例えば、レギュラー外の選手が同じ4年間でレギュラーと同じくらいの達成感が得られるのでしょうか？そこに指導者が入り込む余地はあるのでしょうか？

祖母井　去年までの場合は出場ぎりぎりの人数でやっていましたが、今年は人数が増えて、これからもっと増えていくと思います。試合に出られない選手も当然出てきます。出られない学生のモチベーションがあがらない。そうするとチーム全体はまとまりにくくなりますね。人数を増やすことはいいんですけど、今度は人数に見合った指導者、スタッフの数を増やしていかない

CHIBA　女子バレーボール部　［監督　益子 直美］

徹底した心と体づくりが土台となって技術が開花すると考え、自分の限界まで挑戦するトレーニングと基礎練習を徹底しています。合宿ではキャンパスに隣接する大厳寺での勤行を取り入れ、心を研ぎ澄ませるひとときを経てから練習に臨んでいます。『常に笑顔、常に挑戦』が、部員たちと話し合って決めた淑徳の女子バレーボールのモットー。バレーボールを楽しみながら、部員の一人一人が成長していける場にしていきたいと考えています。

バレーボールは、人の手から手へとボールを繋いでいくことで、素晴らしいプレーが生まれるスポーツです。チームスポーツの要となるのは、仲間を思いやる気持ちと自分の役割を全うしようとする責任感です。大学生活でスポーツに打ち込むことは、社会人としての基礎を作り、かけがえのない仲間との出会いをもたらします。彼女たちが日々、成長する姿に私自身も励まされています。

と1人の監督だと指導はできません。

野瀬　自分が全部見切れる人数は各学年6人だと思っています。ありがたいことに希望して入ってくる学生は増えていて、現在は30人弱くらいでやっています。コーチやスタッフを増員することは必要だと思いますが、その前提は自分自身の指導理念や方法を徹底できるかどうかだと思います。

増淵　私が来た時には部員は14人しかいませんでしたが、今年新たに14人入って、来年20人くらい入るのでそれなりの大所帯になります。でも、何をしたら全員が同じ方向を向いて"4年間やってよかった"という思いを持ってもらえるのか、現在模索しているところです。

　野瀬監督に質問ですが、4年生に上がるまでの間で辞める選手はいないんでしょうか？

野瀬　そうですね。私が就任してから一番良かったのは1人も辞めていないということです。一人ひとりに柔道ノートというのをつけさせていて、それを週1回チェックして、交換日記じゃないですが選手の状況を常に把握しています。しかし4年生には自由にやらせています。それだけ"4年生を信頼しているからお前たちがやるんだ"という空気を作ると、途中でやめずに4年間が勝負なんだ、という感じが出るのではないでしょうか。それを1年生から3年生が見ていますから。

増淵　母校は部員が70人もいたので、レギュラーとそうでない人の温度差が多少なりともありましたので、そうさせたくないなという思いがあります。来年から40人くらいになりますので、どういった練習内容にしようかなと日々考えています。

祖母井　技術的には明らかに"Aチーム"には無理だな"という選手もいますが、中には"もう一歩"という選手も結構いるんですよね。この"もう一歩"という選手が日本ではなかなか育つ環境にないのです。今、活躍できているのは早咲きの選手ばっかりですよね。遅咲きの選手はどうするんですか。自分を磨ける環境が少なすぎて、自分自身で"俺はそういう選手なんだ"と思わなければいけない状況になっています。僕は人ってすごく可能性があると思っています。そういった考えをベースに大学スポーツの在り方、プロスポーツの在り方を考えていきたいなと思っています。

野瀬　今、先生がおっしゃった通りで、試合に出ないと自分を表現する場もありません。自分自身も、あまり勝ち負けにこだわったりするのを止めようと思っています。こだわってしまうと安定した選手を使いたいという思いが強くなり、こっちも冒険できなくなってしまいます。選手を自分の価値観で見ないというか、"こいつはこれくらいのものだろう"という見切りは絶対しないようにしたいと思っています。選手の可能性を信じて、その可能性はそれぞれの選手自身が広げていく、そのサポートが出来ればうれしいですね。

福山　強化クラブに指定されて、それぞれの当面の目標、2020年くらいまでの目標について教えていただけますか。

野瀬　うちみたいなチームで日本一になったらおもしろいな、というふうには思っています。やっぱり高校時代に勝ち続けてきた選手じゃないと、大学でも勝てないという大学柔道界を変えたいという思いは強く持っています。私も学生を育てるということでは、どこにも負けたくない。優勝することがすべてではありませんが、でも一度は学生たちと一緒に大きなことが出来ればと思っています。それから世界選手権、オリンピックにも淑徳大学から出したいというのが本音ですね。

増淵　勝利を目指せばその中には必ず成長があると思うので、自分自身が日本一になった時の景色を学生に見てもらえる様、全力でサポートしていきたいなと思います。練習は泥臭くても、試合会場に行ったら"あのチーム本当にかっこいい"と思ってもらえたら最高ですね。"やるときはやる！遊ぶときは徹底して遊ぶ！"そんなメリハリの中で強いチームになっていけたらいいなと思っています。2020年度にソフトボールがオリンピック種目に追加されますがアンダー25で選手が概ね決まってしまっているので、2024年にソフトボール競技があったときには、淑徳大学から1人でも多くの選手が出場できればいいな、と思っています。

祖母井　監督抜きで私が目標を掲げるわけにはいきませんが、全員が必死に練習ができるような環境を大学と話をして実現していきたい。環境面のところで学生たちが不自由なく100%練習できる環境を大学側と話をして一つひとつ実現し、今以上のリーグで闘うチャンスが訪れるように側面からサポートしたいなと思います。

　指導者と大学の強化の方向性が違ったりすると力も発揮できないので、成績や監督の指導に対する評価を誰がどのような仕組みで行うのかについても、大学側の考えと監督の考えをマッチングさせていくことがすごく大事だと思います。

増淵　今日は、みなさんのお話を聞かせていただいて本当に勉強になったというか、違う競技なので刺激になりました。ぜひこういう機会を今後も設けていただければ嬉しいです。

福山　今回は大学の広報誌での対談で一堂に会していただきましたが、今、増淵さんがおっしゃったように、できることならば強化クラブの指導者が定期的に集まって経験交流ができるような仕組みを、ぜひ大学側にお願いしたいと思います。

4年間のびのびと自分らしくやらせています
学生たちを信頼しているから

野瀬（のせ） 英豪（えいごう）〔女子柔道部（埼玉）監督〕

埼玉大学卒業。同大学の監督を務めたのち、淑徳大学女子柔道部監督に就任。
現役時代は2002年日本国際柔道大会３位、2003年全日本実業個人選手権優勝など。

CHIBA　吹奏楽部　［指揮者長：社会福祉学科2年 三上更紗］

「指揮者長」とは、指揮者として先頭に立ち、部員と一緒に音楽をつくり、まとめていく役割です。

吹奏楽部は、福祉施設や社会福祉協議会、幼稚園など地域で幅広く訪問演奏を行っています。また夏にはコンクールに出場し、冬は定期演奏会に向けて練習しています。

部員への指導の際には、周りを見て、今部員に必要なことは何か、練習のための練習ではなく、本番のための練習ができているようにすることを心がけています。クラブ活動を通じて、部員と自分自身と向き合える人になっていきたいと思っています。

SAITAMA　女子卓球部　［ 監督 鄭 日永］

淑徳大学卓球部の選手として大学の名誉、選手自身の名誉を高めるための練習をすること、大会で最善を尽くすための練習ができるような環境づくりを心掛けています。また、選手が目的意識と目標を常に持って生活ができ、卓球と学業のどちらも一生懸命取り組むことができるような人間になれるように注意しながら指導しています。

さらには、選手が卒業する際「自分は卓球という分野でたくさんの努力をして最高の経験をすることができた」という自信が持てるように、それによって社会に出て様々な分野でも多くの人に認められるような努力ができ、良い対人関係を維持できる人間になれるように人間性の教育も頭に入れて指導しています。

2008年 総合福祉学部卒業後、都内の病院に勤務。3年前から現職。医療ソーシャルワーカー（社会福祉士・保健福祉士資格取得）。「在学中はとにかく社会福祉士資格を取るのが目標でした」と語ってくれました。

淑徳人 No.214

HIRANO Kasumi

平野 香純さん

筑波大学附属病院 がん相談支援センター 勤務

大学病院でがんに関する相談を受け持つ平野さん。
訪れるのは入院中の方や外来の方、他の病院で治療中の方。
そして患者さんの家族や、地域市民の方など様々です。
そんな多様な人に寄り添って支えるのが、医療ソーシャルワーカー。平野さんがこの仕事を志したのは、ご家族の病気と、淑徳大学での出会いがキッカケでした。

患者さんだけではなく、周囲の方の見えない部分まで支えたい

2人に1人ががんに罹患する現代。昔に比べれば治る病気になりましたが、その分、長期的な支援が欠かせません。生活や将来のことで悩む家族や、将来がんになったら?と心配する人も増えています。平野さんの仕事は、そうした多様な悩みに寄り添うこと。

平野さんがこの職業を志したのは、ご家族の病気がキッカケでした。「兄が白血病に罹り6年間の治療を続ける中、家族として大変な経験がありました。それで高校のときから福祉の勉強をしたいと思い、自宅から通えることと、歴史があることを高校の先生に教わり、淑徳大学を受験しました。」

そうして始まった大学生活、将来の進路は次第に明確になります。平野さんの人生に大きな影響を与えた出来事は2つ。1つ目は、2年の夏に参加した天津大学語学研修です。ここで一ヶ月間同じメンバーと過ごしたことで、それまで不得意だったコミュニケーション力が磨かれ、物事を即断する力も養われました。2つ目が、佐藤俊一先生の医療ソーシャルワーク論を受けた時。病院の中で働くソーシャルワーカーがいることを知り、「あ、自分がなるのはこれだ!」と感銘を受けたのです。

「病院の中で患者さんを支える仕事に就きたい。」将来を志した平野さんは、そのまま佐藤ゼミに入ります。しかしそこで待っていたのは、必ずしも明るく楽しいだけの日々ではありませんでした。

「当時のゼミ生は約20人いたんですが、みんなで円になって丸1日話をしたり、2泊3日の合宿をするんです。そこで自分をどう表現するか、人からどう見られているかを徹底的に掘り下げました。最初にテーマは何もなく、まっさらな状態で始めて、先生はニコニコしてるだけ。それで身近なサークルや彼氏彼女の話をするんですが、他愛ない話は早々に尽き、どんどん深い話になります。逃げ場のない中で互いに内面を晒し合うなど厳しい思いをする中で、多くの気付きがありました。」

この体験を通じて学んだのは、一人ひとりみんなが違う、心や体に苦労を抱えていてもそれは外からは見えないなど、今に繋がる大事なこと。そして平野さんは勉強を重ねて社会福祉士国家試験に見事合格、念願の就職も果たします。「社会福祉士資格は特に最近、その重要度が上がっています。一度取れれば、後々絶対に役に立つので、福祉業界に興味がある方は、ぜひ取得を目指して欲しい。」と語ってくれました。

そして平野さんは「今後は自分の中の専門性を高めて、若い人や女性の力になりたい」という将来を描き、今も歩みを続けています。

Photo × Photo

天津留学をともに過ごした仲間たち。天津大学の学生とも国境を越えた友人ができました。
（最前列の右から3番目が平野さん）

大学4年次の佐藤ゼミ合宿メンバー。個性豊かなゼミ生とたくさんの思い出ができました。
（最後列右端が平野さん）

ともいきのこころ

—学祖のバトンを受け継ぐ—

スポーツから ともいきのこころが広がる そして、すべてのいのちが輝く

千葉県はとりわけ「パラスポーツ（障がい者スポーツ）」が盛んであるという。オリンピック同様にパラリンピックも注目を集め、2020年東京大会への期待も高まる。これまでも、「共生」「実学」の理念に基づき、学生・卒業生・関係者が、スポーツにかかわるさまざまな支援に取り組んできた。多様な価値観、国際社会の共生が強く求められているいま、学祖は私たちの活動を期待を込めて見守っているはずだ。

ゆめ半島千葉大会の成功に　本学が貢献

2010年、ゆめ半島千葉国体にあわせて、障がい者スポーツの祭典「ゆめ半島　千葉大会」が開催された。この大会において、約900名の学生ボランティアのうち、実に本学から6割を超える541名の学生が名乗りを上げた。

「福祉の淑徳にぜひとも大きな力を貸していただきたい」。千葉県国体・全国障害者スポーツ大会局より学生ボランティアの協力要請を受けた本学は全面的にサポートすることを決意した。全国から集う障がいを持った選手のお役にたち、スポーツを通じて、幸せと命の喜びを分かち合う、まさに本学が主導的役割を果たすべき大舞台であり、なおかつ、学生が実践を通して福祉を学ぶまたとない機会と確信した、と長谷川匡俊学長（当時。現・大乗淑徳学園理事長）は述べている。

学祖の思い、大学の期待に学生たちが応えた。とは言え、まったく手探りの状態からのスタートだった。始めは地域支援ボランティアセンターの学生5名が中心となり、やがて10名、20名へ。このメンバーがポスターを作ったり、教室を回って直接参加を呼びかけたりして、地道な努力を続けた。そして、仲間が仲間を呼び、花開いた。各地域、種目に分かれて、到着から開会式、競技、閉会式、見送りまで、選手の行動をまさに一心同体となってサポートした。

「障がい者の方と私たちとではなにひとつ壁がないことを知った」「選手たちからたくさんの感動とパワーをもらった」「選手の皆さんとの出会いは、これから先、辛いこと、悲しいことがあったとしても私たちを支えてくれるだろうと思う」。参加した学生たちから感謝の言葉が続いた。見送りの時には涙を流して別れを惜しむ者もいた。

さらに、他都道府県の選手団長・役員として活躍する卒業生との再会もあったという。学祖が掲げた「共生」の思想が、世代を超え、地域を超え、脈々と受け継がれていることを大いに誇りに思う。2020年東京オリンピック・パラリンピック、障がい者スポーツへの関心が高まる中で、私たちは先駆的な取り組みを行ってきたのだ。

千葉大会に出場する選手団をお迎えする際の応援旗。学生が都道府県毎に手作り。大学は千葉・千葉第二キャンパスを一週間にわたり休講として、ボランティア活動への便宜を計った。

同窓生の尽力で脚光を浴びた車椅子バスケットボール

圧倒的なスピード感と迫力で観戦する人を魅了する車椅子バスケットボール。学祖の名前を冠する「長谷川良信記念　千葉市長杯争奪　車椅子バスケットボール全国選抜大会」は、今年の大会で6回目を迎える。この大会は、第1回の企画から当日の大会運営に至るまで、本学の学生が実行委員会を発足させて実施、第4回から千葉市と淑徳大学の共同主催として開催されてきた。

車椅子バスケットボールを本学のプログラムとして導入、定着させた陰には、一人の同窓生の尽力があった。かつて、仕事を通して車椅子バスケットボールチームのメンバーと知り合い、彼らのカナダ遠征の夢を実現させようと献身的に力を注ぐ。打ち合わせのために単身でカナダに渡り、さらにはカナダの障がい者チームの招聘にも奔走した。動き出すうちに、大使館やカナダ障害者スポーツ協会の関係者など、みるみる協力者の輪が広がっていったという。こうした経緯から、車椅子バスケットボールとの長い付き合いが始まり、本学の行事の一つに育てあげ、第一回長谷川良信賞等も受賞した。なお同氏は、バリアフリー・ユニバーサルデザインの市民活動を推進し、第一回バリアフリー功労者表彰内閣官房長官賞も受賞している。

自分のためではない、車椅子バスケットボールチームの夢を実現することがいつしか自分の夢となり、本気になって活動し、それがいまでは、千葉市や学生への教育に貢献する結果となって大きく実を結んだ。まさに、自利利他の実践である。

前回の東京オリンピック開催（1964年）と本学の開学（1965年）はほぼ期を同じくする。半世紀の時の流れの中で、学祖の理想が一歩一歩前へ向かって進んでいる。

（参考「淑徳人の証言　学祖・長谷川良信に続くもの」米村美奈／淑徳大学長谷川仏教文化研究所）

※淑徳大学では、固有名詞化されている場合を除いて「障がい」の表記に統一しています。

淑徳調査団 vol. 14

第14回を数える「淑徳調査団」は、淑徳大学にまつわるギモンや面白そうなことをリサーチしていく企画です。

埼玉キャンパスの「生協学生委員会」は、学生の生活をよりよくするために大学生協と学生をつなぐ役割をしている機関です。

具体的には、購買書籍部の装飾、学生が参加できる生協イベント、学生のニーズ調査とそれに基づく購買・食堂の改善・販売促進等の活動をしています。

今回は、「一言カード」と「人気商品調査シリーズ」から埼玉キャンパスの学生のニーズを徹底リサーチ!!

今回のテーマ

埼玉キャンパス「生協学生委員会」

「“食堂のご飯の量は適量か？”」

「“売店で一番売れるお菓子は？”」

を徹底リサーチ！

Data 1

学生の要望を聞く「一言カード」から集計しました！

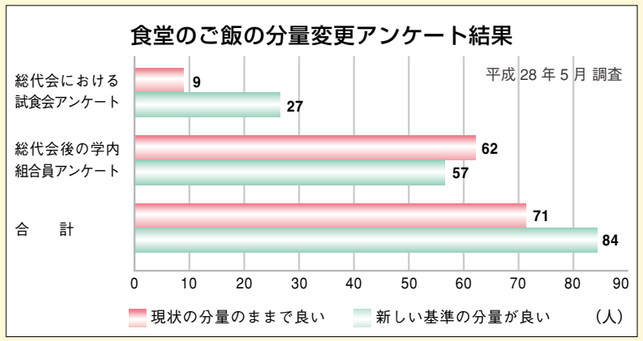
今回の調査テーマは

食堂のご飯の量は適量か？

学生からの「こんなことをしたい！やってほしい！」という要望を「一言カード」で投書してもらい、それに対し生協職員と学生委員会が検討・回答をし、叶えることのできる方法を探っていきます。学生の意見をもっと知りたい時は、シールなどを用いて学生の支持の強弱や意見の分散を調べます。

今回調査したのは、「食堂のごはんの分量」です。

一言カードに「ごはんの量が多すぎる!!」との意見があり、量の変更を希望するかどうかのアンケートを２回に分けて取りました。アンケート結果に基づいて、当委員会で議論を重ね、右の表のようになりました。



従来		変更後
小ライス……150g	〉〉〉	ミニライス……100g
中ライス……240g		小ライス……130g
大ライス……320g		中ライス……200g
		大ライス……270g
		特大ライス　…340g

埼玉キャンパスの生協食堂で提供する新たなご飯のサイズ分類

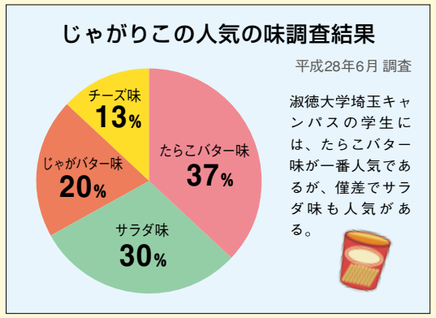
Data 2

人気商品調査シリーズ

売店で一番売れるお菓子は？

この人気商品調査は、平成28年度からスタートしたもので、「学生はどのようなものが好きなのか？」という疑問から企画が実現しました。調査は投票形式で行い、シールを用いた紙面調査とTwitterの投票機能を利用しました。

第1回は「じゃがりこ」の４種類の味（サラダ、じゃがバター、チーズ、たらこバター）の人気投票を行いました。そして、一番人気のある「たらこバター味」を期間限定で値下げをしました。



調査：生協学生委員会

1年　盛　優太さん
小山 禎貴さん
浅見　颯さん
渋谷 優輝さん
佐藤 紀香さん
永井 亜佳音さん
長谷川 紗弓さん

1年　清水 七海さん
野口 彩音さん
野木 玲歩さん
藤澤 真由子さん
大栗 京華さん
長谷川 榛名さん

2年　高草木 麗眞さん
石井 雅人さん
田辺 佳穂さん
中村　蓮さん
中村 友香さん
片桐 琴音さん
永井 伶奈さん

淑徳調査団 メンバー募集！

探ってほしいテーマや調査に参加してくれる団員を募集しています。（ゼミ・サークル可）

reply@soc.shukutoku.ac.jp

CLUB PRESS No.214

各キャンパスのクラブ・同好会をご紹介します

うたう会　はぐるま

CHIBA CAMPUS

- 代表者　神崎　翔子（コミュニティ政策学科2年）
- 創　部　1975年
- 部員数　34名（男子11名　女子23名）
- 活動日　毎日（週1回ミーティング）
- 活動場所　部室（12号館 29号室）

こんにちは。うたう会 はぐるまです！

うたう会 はぐるまは、好きな楽器を自由に弾いたり、歌を歌ったり、最近では軽いダンスも行なっている音楽サークルです。経験者の方はもちろん楽器初心者の方も入っていて、たくさんの楽器に触れてみんなで音楽の楽しさを感じながら活動しています。どの学年も仲が良くてアットホームな雰囲気があるので、第2の家に感じるかもしれません！

龍澤祭でのステージ発表や、合宿、クリスマスライブなど、1年間に様々なイベントがあり、最近ではボランティア活動として学外での演奏も行なっています。こういった活動内容や部員数が増えたことにより、2016年に届出団体から準認定団体へ昇格しました！これからも音楽を通じて楽しくサークル活動を続けていきます！

e-Style

CHIBA 2ND CAMPUS

- 代表者　原田　果歩（栄養学科２年）
- 創　部　2016年　●部員数　3名（絶賛、募集中）
- 活動日　毎週木曜日 16 時～ 20 時
- 活動場所　1 号館 ラーニングコモンズ

こんにちは！私たちは看護栄養学部初の栄養系サークル、e-Styleです。

今年度6月に発足したばかりのサークルで、健康をテーマに「アイディアを形にしよう」というコンセプトのもと活動しています。今現在の具体的な活動としては、学食さんにご協力いただき、お弁当の販売や学食でのコラボメニューの提案などをしています。また、この活動の一貫として学食を盛り上げるために、ショーケースの飾り付けなど、多岐にわたって活動しています。コラボメニューの際はぜひ食べてみてくださいね♪

今後は学内だけでなく、レシピコンテストへの参加などを通じて活動の範囲を広げていければと考えています。現在は大変少人数で活動しています。新たな活動の為にも一緒に活動してくれる仲間を常時募集しておりますので、少しでも興味のある方はぜひ遊びにきてみてください！

軟式野球部

SAITAMA CAMPUS

- 代表者　川上　渉（観光経営学科３年）
- 創　部　2009 年　●部員数　15 名
- 活動日　毎週月曜日　17 時～ 21 時
- 活動場所　105 号室

こんにちは。

私たち軟式野球部は、大学近隣の三芳町総合グラウンドなどで日々楽しく活動しています。教育、経営の両学部の学生が所属しており、学年の枠を越えてとても仲の良い部活です。一人暮らしの学生も多く、私生活との両立も可能です。日々の練習の他に、首都大学軟式野球連盟に所属しており、春、秋のリーグ戦に参加しています。現在は連盟の2部なので、2部での優勝と1部への昇格が目標です。また、部員数を増やし選手層を厚くすることが課題となっています。野球経験の有無は問いません。興味のある方は、練習体験からでも行っていますのでぜひお越しください。その他、マネージャーも募集しています。私たちと楽しく野球をしてみませんか？

フットサルサークル

TOKYO CAMPUS

- 代表者　羽吹　蓮（歴史学科２年）
- 創　部　2015 年　●部員数　28 名
- 活動日　毎週木曜日　17 時～ 21 時
- 活動場所　３号館アリーナ

こんにちは、フットサルサークル同好会です。

私達は、初心者～上級者までの男子28名で活動しています。「フェアプレー精神に則りルールを守って楽しく試合（デュエル）」をモットーにしています！基本的に試合形式ですが、最初に軽いウォーミングアップをしてワイワイ始まります。活動中は上下関係がほぼ無く、活動後は夕食を共にするくらい仲が良いサークルとなっています(笑)また、我がサークルは表現学科8名・歴史学科20名となっており、３年が1名・２年が12名・1年が15名で構成されています。これからもわかるように、先輩、後輩の垣根を越えて交流を深めることが出来るので、すぐに友達になれます！

現在、短大生の部員が居ないので１人でも多くの短大生に入って頂いてこの大学を一緒に盛り上げて行きたいなと思っています！(笑)最後になりますが、我がサークルは「来るもの拒まず去るもの追わず」でやっていますので、ぜひ見学だけでも構わないのでお待ちしています。

ンスが開催されました。講師は、映画やテレビで俳優として活躍した後、企画制作マネージメント会社を起業、現在は日本芸能マネージメント事業者協会の理事も務める水城大裕さんです。「魅力ある人間しか俳優になれない」「今日から甘い考えは捨てろ」といった心構えから、声優になった後どのように仕事がくるかについてまで幅広くお話いただきました。現場を経験しているからこそ語ることができる「声優という世界の厳しい現実」について、集まった学生は真剣な眼差しで聞き入っていました。

就職活動必勝ガイダンス開催

11月26日、東京キャンパスキャリア支援室主催「就職活動必勝ガイダンス」が行われました。第一部「2017生就活振り返り」と「2018生就活予測・就活方法」では、SPI開発元である（株）リクルートキャリアの講演会を開催。3年生の今の時期に、何を、どのように準備しておけばよいかについてお話いただきました。第二部のパネルディスカッションでは、就活情報サイト運営会社4社から、人文学部1期生の学生を対象としたアドバイスや応援メッセージをいただきました。

この日は学生のガイダンスと合わせて、父母向けの就職説明会も同時開催。ご父母の方々、学生、大学の三位一体となり、厳しい就職活動を乗り越えていこう！と意識を高めることができた一日となりました。

参加が減ってしまいましたが、教育学部1年生82名と教職員8名の計90名が、開会式オープニングイベントでオリジナルイメージソング「よしヨシMIYOSHI！カーニバル～SUN富（とめ）SAMBA～」を歌い踊り、スタンプラリーでのムギ迷路、いも掘り、雑木林の散策、上富（かみとめ）小学校敷地内特設テントにおける「いも版てづくりコーナー」での制作指導等、一般参加の方々と親睦を深めながら楽しい一時を過ごしました。

▲ いも版制作
参加したこどもたちと一緒に真剣に取り組みました。

「企業経営研究Ⅲ」（ファッションコース）：株式会社ジャパンイマジネーションとの連携授業

経営学科の産学連携授業「企業経営研究Ⅲ」には6つのコースがあります。ファッションコースの授業に協力していただいているのが株式会社ジャパンイマジネーションです。同社はCECIL McBEEという若い女性向けのブランドを展開・販売している著名アパレル企業です。10月19日、まず同社の人事部の八文字さんにお越し頂き、ファッション業界の基本知識や販売現場についてレクチャーをして頂きました。授業後、リサーチ課題を頂きました。それを受けて、コース履修生全員が10月26日に大学近くのららぽーと富士見店へ出掛け、ファッションブランドの比較調査活動をしました。今後、同社の新宿本社を訪問し、調査結果を報告し提案を発表していく予定です。

TOKYO Campus

声優志望学生必見！「声優への道」キャリアガイダンス開催

11月4日、12月2日の2回にわたり、人文学部表現学科で声優希望者を対象にキャリアガイダンスが開催されました。講師は、映画やテレビで俳優として活躍した後、企画制作マネージメント会社を起業、現在は日本芸能マネージメント事業者協会の理事も務める水城大裕さんです。「魅力ある人間しか俳優になれない」「今日から甘い考えは捨てろ」といった心構えから、声優になった後どのように仕事がくるかについてまで幅広くお話いただきました。現場を経験しているからこそ語ることができる「声優という世界の厳しい現実」について、集まった学生は真剣な眼差しで聞き入っていました。

定して議論を重ねています。今後道の駅での行動観察やインタビューなど追加調査も実施予定です。

3年生向け「就勝合宿 2016」を開催しました！

10月1日・2日にかけ、森林公園ホテルヘリテイジにて本年度で3回目となる就勝合宿を開催しました。今年は第1回の約6倍となる67名の学生が参加しました。企業研修などでも取り入れられる「7つの習慣」の考え方をベースに、自分の価値観を再確認し、働く意欲を高めるための個人・グループワークなどを実施しました。学生たちは普段なかなか考えたことのないテーマに苦心もしましたが、この2日を通して改めて自分の生き方について考えてみる機会になったようです。学生からは、「就活への不安を取り除くことができた」「就活のイメージができた」など大変好評でした。3年生はこの就勝合宿をスタートとして、今後も就職に関する講義やイベントを通し、就活本番へと準備を進めていきます。

掘ぉれ、掘れ、掘れ、い～も～！
～歌って、作って、いも掘って、地域の方々と親睦を深めよう～

10月2日に、三芳町三富（さんとめ）新田の、風土・歴史に触れつつ、さつまいも掘りを体験する「世界一のいも掘りまつり」に今年も参加しました。

当初予定の1日が雨天順延となり実施当日は

開会式にてオリジナルイメージソングと踊りを披露

NEWS CLIP
2016.9-2016.12

看護栄養川柳コンテスト

毎年恒例の看護川柳コンテストも、昨年看護栄養川柳コンテストと名称を変更し、今年で8回目を迎え、全国各地より昨年度の2倍を上回る1,064句もの川柳が寄せられました。今回も多数の優れた作品のご応募を頂きましたが、学長を委員長とした選考委員会による厳正な選考の結果、大賞をはじめ5作品が入選いたしました。

第8回淑徳大学看護栄養学部
看護栄養川柳コンテスト　表彰作

大賞	寝たきりの　あなたとしたい　口喧嘩	居間　正三　様
優秀賞	将来の　夢を語らう　祖父と祖母	長峯　雄平　様
佳作	とるべきは　食バランスと　皮下脂肪	サンムーン　様
佳作	包帯と　一緒に巻かれる　温かさ	齋藤　裕子　様
佳作	介護して　寂しがりやの　父と知る	宮原　孝浩　様

SAITAMA Campus

道の駅と大学連携～魅力ある横瀬町の観光振興を淑徳生の視点から～

観光経営学科では、横瀬町と道の駅あしがくぼ果樹公園との連携を昨年来、行っています。今年度は千葉ゼミ・堀木ゼミ合同で、各々の特色を活かした研究を進めています。1泊2日組と日帰り組とで現地視察も行いました。千葉ゼミでは、経営学部ブログ内に「観光とメディアゼミ」の新カテゴリーで記事紹介を始めました。ぜひご覧ください。ほかにもフェイスブックやインスタグラムを活用して、学生記者の目線で魅力を発信しています。堀木ゼミでは利用者の行動特性に応じた「もう一品買ってもらう」ための提案を行うため、チーム別にターゲット層を決

浄土宗シンポジウム　共生（ともいき）

11月16日に行われた第50回 龍澤祭にて、浄土宗宗門関係の3大学（淑徳大、埼玉工大、大正大）が寺院と社会の可能性をテーマに、「シンポジウム共生（ともいき）～わたしたち学生、寺院、そして社会の可能性～」を開催しました。

日ごろの社会連携活動を行っている学生が寺院の社会的役割の考査と実現性を検証し、学生ならではのアイディアを発表しました。本学からは「西福寺のある佐倉市弥富で里山ホームステイ」について地域の問題を確認し、町、寺院、大学が協力した町おこしの可能性について提言をいたしました。また、テレビ朝日「ぶっちゃけ寺」などに出演されている、井上広法上人（浄土宗光琳寺 副住職）を迎えて学生とアイデアの実現に向けパネルディスカッションを行いました。

CHIBA2nd Campus

三芳町と地域連携事業

埼玉県三芳町と栄養学科の地域連携事業、4年生が卒業研究として取り組みました。

1．埼玉県三芳町は、健康寿命を延ばし医療費の適正化を目的とした健康長寿プロジェクトに取り組んでおり、その一環として5～9月、三芳町の野菜を使って栄養バランスを考えた地産地消のオリジナル弁当の開発に取り組みました。栄養量はエネルギー650～700kcal、食塩相当量3g以下、野菜150～180g以上とし、秋と冬のそれぞれの季節向きの設定で作成しました。

2．「みよし野菜ブランド化推進」事業は三芳野菜のイメージアップ、野菜の消費拡大を目的に行っている事業で、昨年から取り組んでいます。三芳町の野菜を使って健康意識の増加、野菜摂取量増加、食育推進を目的として、栄養量はエネルギー650～800kcal、食塩相当量3g以下、野菜175～200gとし栄養バランスを考えた地産地消のランチメニューを開発しました。

※開発したお弁当、ランチメニューは「福祉喫茶ハーモニー」で提供されました。

CHIBA Campus

公務員試験合宿

9月1日～3日、浦安市青少年交流活動センターにて、昨年度に引き続き、2泊3日の公務員試験勉強合宿を実施しました。今年度は対象学年を拡大し、コミュニティ政策学部の1年生から3年生の約30名が公務員試験合格に向けて集中的に学びました。合宿では、筆記試験対策（一般教養・専門）から面接試験対策に至るまで、幅広く受験対策を行いました。また、市役所勤務の卒業生と裁判所事務官や千葉市役所等に合格した4年生から、受験勉強のノウハウ等、合格の秘訣も教わりました。参加学生は公務員試験合格を目指して熱心に取り組んでいました。

平成28年度 淑徳大学アーカイブズ特別展「知的障がい児福祉の先駆け―踏むな 育てよ 水そゝげ：久保寺保久と八幡学園―」開催

昭和3年（1928）久保寺保久によって設立された八幡学園では、園児一人ひとりに寄り添った教育・福祉事業を展開し、それぞれの特性に見合った作業（絵画・工芸等）を通して園児らの才能を高めていきました。本展では、八幡学園による知的障がい児福祉の足跡を紹介します。

会　期
平成28年11月5日（土）～平成29年4月28日（金）
10時～16時　入場無料
※土・日・祝日は休室日です。
※山下清の初期の作品を下記期間限定で展示します。
平成28年11月5日（土）～平成29年1月27日（金）

会　場
千葉キャンパス淑水記念館3階
「淑徳大学アーカイブズ特別展示室」

問い合わせ先　TEL. 043-265-7526（直通）

SHUKUTOKU Together 214
The Shukutoku University Newsletter
発行日：平成29年1月1日　編集：大学広報編集委員会　発行：大学事務局　制作協力：株式会社図書出版

平成28年度

卒業式のお知らせ

千葉 CAMPUS
平成29年 **3月15日（水）**
開場：9時15分　開式：10時
場所：千葉キャンパス 記念館（アリーナ）

千葉第二 CAMPUS
平成29年 **3月15日（水）**
開場：11時45分　開式：13時
場所：千葉第二キャンパス　看護栄養学部 2号館201教室

埼玉 CAMPUS
平成29年 **3月17日（金）**
開場：9時20分　開式：10時
場所：埼玉キャンパス体育館

第6回 長谷川良信記念 千葉市長杯争奪

車椅子バスケットボール全国選抜大会

3/4（土）　3/5（日）

リオパラリンピック日本代表選手の大半が出場する全国トップ6チームのみの大会。だから全試合トップレベル。学生たちが協賛金集めから運営のすべてを主管している大会です。淑徳大学生ならぜひ一度ご覧ください！ 観戦無料!!

会　場
千葉ポート アリーナ

出場チーム
- 千葉ホークス
- 宮城MAX
- 埼玉ライオンズ
- NO EXCUSE
- ワールドBBC
- パラ神奈川

知識モリモリ×健康モリモリ vol.15

―今回は平澤 マキ 先生に伺いました。

冬がピーク、ノロウイルスによる食中毒

厚生労働省の通達によると感染性胃腸炎の患者発生は、毎年12月中旬ごろにピークになる傾向があり、この時期に発生する感染性胃腸炎のうち、特に集団発生例の多くはノロウイルスによるものと推測されています。

平成27年に発生した食中毒の原因物質別の事件数1,202件のうち、ノロウイルスの事件数は481件（40.0%）となっています。さらに、原因物質別の患者数22,718人のうち、ノロウイルスによる患者数は14,876人、（65.5%）を占め、ノロウイルスの猛威がわかります。

ノロウイルスは感染力が強く、大規模な食中毒になりやすい特徴があり、事件数、患者数ともに年々増加の傾向にあります。最近では餅つきのイベントで起った事例が話題になりました。

本学では学科の特性から学外実習に出る学生も多く、感染症に罹らない、また陽性保菌者となって周りの人にうつさないための日ごろの健康管理がとても重要と考えています。

- **二枚貝等を食べる時は十分な加熱（85～90℃で90秒間以上）**
- **周辺にいる家族や友人の健康状態にも注意**
- **トイレの後、調理の前などに手洗いの徹底**

に心がけて予防しましょう。

感染が疑われる場合にはアルコールではなく次亜塩素酸ナトリウム（塩素消毒液）の希釈液が殺菌に有効です。

編集後記

昔から文章を書くのは苦にならない方で、幼少の頃からよく日記をつけていた。縁あって昨年より大学の広報編集委員を務め、今までにない経験をさせて頂いている。編集委員には常に大学での行事や動向にアンテナをめぐらせ、発信するに相応しい記事を集める能力、原稿を依頼し期限までに寄稿して頂くための巧みな交渉能力が求められる。さらに出版のゲートキーパーともいうべき慎重かつ地味な校閲という作業があり、日々奥深い仕事であると感じている。

最近校閲を題材にしたドラマも放映され、今までよりも世間への認知度が上がり私も含め興味をもった方が増えたように思う。その中で、「文字を通して心がつながる」という言葉が心に残った。編集委員として編集や校閲という仕事の一部を垣間見て、文字を通して人と通じ合えることの素晴らしさを再認識した。

（加藤）

「淑徳大学広報誌」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております！　reply@soc.shukutoku.ac.jp

千葉キャンパス
総合福祉学部　コミュニティ政策学部
大学院 総合福祉研究科
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巌寺町200
TEL：043-265-7331

埼玉キャンパス
国際コミュニケーション学部
経営学部　教育学部
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
TEL：049-274-1511

千葉第二キャンパス
看護栄養学部　大学院 看護学研究科
〒260-8703 千葉県千葉市中央区仁戸名町673
TEL：043-305-1881

東京キャンパス
人文学部　淑徳大学短期大学部
〒174-0063 東京都板橋区前野町6-36-4
TEL：03-3966-7631